

（仮称）小牧市こども未来館ワークショップ 実施報告

平成29年12月8日（金）に、第2回有識者ワークショップを開催しました。

第2回では、先に行われた保護者および中高生ワークショップでの意見や、前回いただいた意見や提案を踏まえて作成したゾーニング案をもとに、こども未来館に盛り込むコンテンツやその大きさについて、それぞれの専門分野からや、運営側、来館者側それぞれの視点からの意見や提案など、活発なディスカッションが行われました。

1. 開催日程について

◆第2回有識者ワークショップ◆

日時：平成29年12月8日（金）

午後6時～8時

場所：小牧市役所 本庁舎6階 601会議室

参加者：下記のとおり（敬称略・順不同）

玉置 崇（岐阜聖徳学園大学 教育学部 教授）

長江 美津子（名古屋経済大学 教育保育学科 特任教授）

豊田 洋一（中部大学 工学部 建築学科 教授）

出口 さとみ（春日井保健所 健康支援課 課長補佐）

佐藤 将之（早稲田大学 人間科学学術院 准教授）

石原 邦彦（愛知県児童総合センター センター長）

坂廻辺 範子（味噌児童館サポーター代表）

概要説明の様子



2. 意見交換・ディスカッションについて

テーマについて自由に意見交換およびディスカッションを行いました。

・【テーマ】「（仮称）小牧市こども未来館に盛り込むコンテンツと規模について」

・ディスカッションでの主な意見は下記のとおりです。

- この施設は中央児童館として、児童館+αの要素が大事になってくるので、各地域の児童館との機能の棲み分けが大切。
- 児童館と店舗などその他の施設との共存は可能だが、児童館とするエリアに不特定多数が出入りするのはあまり好ましくない。
- 店舗とのフロア共存について、こども未来館との関係性や相性が相応しくない店舗は配置しない方がよいのではないか。ただし、同時に大人も楽しむ施設であることの視点も必要。
- 現状の児童館センターより広く使いやすくなる反面、今まで身近な存在だった児童センターが遠くなってしまわないような、施設の雰囲気づくりも大切である。
- コンテンツとしては、繰り返し遊べるもの、自分たちで創造できるようなシンプルな遊びの場があるといい。与えすぎないことが大事。
- 施設を見学したが、4階新聞コーナーに高齢者男子ありという状況だった、その人口率が高い状況なのでせつかくの人材を混ぜたらいいのではないか。
- 昔の時間を取り戻せる場、など施設づくりに向けたキャッチフレーズがあるといい。例えば、ベーゴマの回し方を教えるおじさんがいて、ベーゴマをショップで買って帰ることができるなどのストーリーがあることで、テナントの配置の視点もおおのずと変わってくるのではないか。
- 妊婦さんの話題の視点で話すと、妊娠中から利用し、産んでからも使いたい、そして成長してこどもになっても施設を利用していくサイクルが大切。
- 吹抜けを設けることは大賛成。空間の特徴としては、いつも同じ空間でなく、固定的でなく可変的で、いつ来ても新鮮な雰囲気があるといい。いつ来ても新しい遊びを生み出せるような仕掛けがほしい。
- ファミリーで楽しめるスペース、家族でみんなでそろって遊べるスペースがあるといい。